

## 約60年前の新聞記事資料レプリカの作成に関して

New way of making replicas of old newspapers published ca. 60 years ago

東田 和弘 (TSUKADA Kazuhiro)<sup>1)</sup>

1) 名古屋大学博物館 〒464-8601 名古屋市千種区不老町  
The Nagoya University Museum, Nagoya 464-8601, Japan

### Abstract

Museum exhibitions have an educational purpose and are a medium of communication between the museum and its visitors. In an exhibition with replicas, successful education can only happen if the replicas retain the impact of the original specimens or artifacts. In the 4th NUM Special Exhibition entitled 'Motoji Shibusawa and his role in the birth of the Nagoya Imperial University,' replicas of newspapers published ca. 60 years ago were displayed in a section on the establishment of Nagoya Imperial University. This paper reports a new way of making replicas of old newspapers without loss of impact. The educational effect is assessed.

### 1. はじめに

博物館は、単に珍しいものや貴重なものを展示・収蔵する施設ではなく、本来教育の場である。特に大学博物館は、“大学における研究のショーウィンドウ”的役割を担っており(例えば, Clarke, 2002), 常にその教育効果を十分に吟味された展示が行われなくてはならない。そういう意味において、“実物展示”は最も効果的な展示法の一つであるが、すべての場合において、実物展示が可能なわけではない。例えば、セキュリティの観点や標本・資料の保存状態によっては、実物展示がふさわしくない場合も多く、次善の策としてレプリカを展示せざるを得ないこともしばしばある。しかし、レプリカ展示によって標本・資料の持つ迫力(インパクト)が失われてしまうのであれば、それは展示としての失敗を意味するばかりか、見る者の興味を失わせ、ひいてはその標本・資料や学問全体について間違った先入観を与えてしまう可能性がある。したがってレプリカ展示においては、精巧か否かということよりむしろ、“実物のインパクトを再現しているかどうか”という点に力を置くべきであろう。

名古屋大学博物館では、2002年4月8日から8月31日にかけて、第4回特別展「名帝大けふ誕生—初代総長洪澤元治とその時代—」を開催した。本特別展では、「名帝大創立のころ」のコーナーにおいて、名古屋帝国大学創立前後の新聞記事資料(名古屋大学大学史資料室所蔵)のレプリカを展示した。本論では、特別展に関連して試行した、約60年前の新聞記事資料のレプリカ作成法と、「名帝大創立のころ」コーナーに対する来館者の反応について報告する。

### 2. 古新聞紙レプリカ作成の背景

第4回特別展は、名古屋帝国大学(以下、名帝大)初代総長洪澤元治の功績と黎明期の名帝大の様子に主眼が置かれた。「名帝大創立のころ」コーナーは、洪澤初代総長着任と名帝大設立までの経緯を語るものとして、特別展会場の最前位置(出入口に最も近い場所)に設けられた。本コーナーでは、名古

屋大学大学史資料室所蔵の名帝大設立前後の新聞記事の切り抜き資料(以下、資料)を展示する予定であったが、昭和13年～14年の新聞紙は劣化のため折り目を開くにも慎重を要する状態であり、資料そのものの展示は困難であった。また、場所等の制約より、展示ケースではなく、“壁掛け”方式のパネル展示にせざるを得なかったことも、資料展示の上で障害となった。そこで本コーナーでは実物の展示を断念し、資料を忠実に再現したレプリカによる展示を試みた。

本コーナーではあえて解説文を掲示せず、資料レプリカの羅列により、名帝大設立までのストーリーと当時の雰囲気を“展示物自身に語らせる”ことを試みた。したがってレプリカでは、60年を経過した当時の新聞の文字、色(あせ、焼け)のみならず、質感(けばだち、しわ)、古さ(汚れムラ、紙質の悪さ)、重厚感など、“実物資料の迫力”そのものを再現する必要がある。本展示では、精密さより、いかに古さ・質感を再現するかに焦点を絞って、レプリカ作成を行った。

### 3. 資料レプリカの作成

#### I 紙質

レプリカの素材となる紙を選択するに当たり、比較的入手が安易な普通紙(再生紙)と更半紙の、紙表面および破断部分について、顕微鏡観察による比較を行った。比較に際し、普通紙はホワイトリサイクルペーパー「EW-500」(キャノン販売)、理想環境用紙100(理想化学工業株式会社)、MY RECYCLE PAPER 100W(株式会社NBSリコー)の3種を、更半紙は石巻更(日本製紙)を被検紙とした。

##### a) 顕微鏡観察による比較

紙の繊維の大きさときめの粗さを比較するため、透過光による顕微鏡観察を行った。暗室に設置した実体顕微鏡の観察ステージに被検紙を設置し、被検紙の下から透過光を当てて観察した。その結果、更半紙は繊維の大きさが不均質であり、明暗による格子状模様が明瞭に観察される(図1)。明暗による模様は、場所による透過光量の不均質性(厚さムラ)を表していると考えられる。一方、普通紙は3種とも比較的繊維の大きさがそろっており、且つきめが細かい。明暗による模様は見られないか、もしくはわずかにモザイク状の模様が見られるのみである(図1)。このことは、再生紙に厚さムラがほとんどないことを示している。

新聞紙は繊維の大きさが不均質であり、且つ明暗による明瞭な格子状模様が観察される。鏡下において、更半紙と新聞紙は、見かけ上酷似している(図1)。

##### b) SEMによる紙繊維および表面構造の比較

紙繊維の大きさおよび表面構造を比較するた

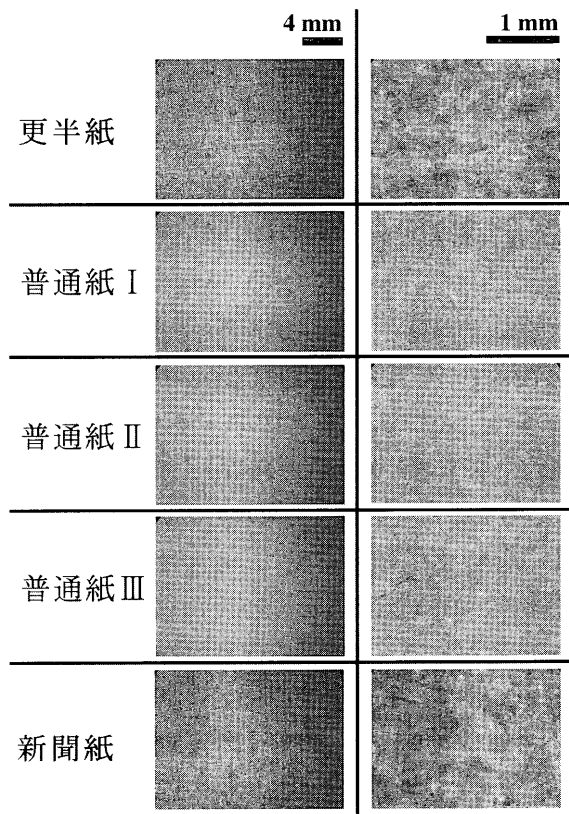


図1 更半紙、普通紙、新聞紙の顕微鏡写真。普通紙I・II・IIIは、それぞれホワイトリサイクルペーパー「EW-500」(キャノン販売)、理想環境用紙100(理想化学工業株式会社)、MY RECYCLE PAPER 100W(株式会社NBSリコー)。

め、SEMを用いて、更半紙、普通紙、新聞紙それぞれの破断部分と紙表面の観察を行った。

SEM像において、普通紙3種に使われている紙繊維に差異は認められないが、更半紙には繊維の大きさ、形状等で普通紙と大きな違いが認められる(図2)。普通紙の繊維は比較的細かく(長さ数100 $\mu\text{m}$ 程度、径約10 $\mu\text{m}$ )、大きさや形状がそろっているが、更半紙は紙繊維個々の大きさや形状にばらつきが大きく、しばしば非常に粗い繊維(長さ数mm、最大径約100 $\mu\text{m}$ )が混入している(図2)。普通紙の紙繊維表面はなめらかで、毛羽立ちはほとんど認められないが、更半紙の紙繊維表面には毛羽立ちが目立ち、大きな繊維から微小繊維が枝状にのびている。普通紙の表面は平滑できめが細かいのに対し、更半紙の表面はきめが粗く、再生紙と比べてざらつき感がある。

新聞紙は、繊維個々の大きさや形状にばらつきが大きく、しばしば非常に粗い繊維(長さ数mm、最大径数100 $\mu\text{m}$ )が混入している(図2)。したがって、SEM観察結果は、新聞紙と更半紙が、見かけのみでなく構造上も酷似していることを示している。以上の透過光による実体顕微鏡観察およびSEM観察より、資料レプリカの素材として、被検紙の中では更半紙が最も適当であると結論できる。

## II インク・印刷機

記事の印刷については、モノクロコピー(Ricoh imagio MF5570)、カラーコピー(Ricoh imagio color 5100)、モノクロレーザープリンター(Epson LP-9800)、インクジェットカラープリンター(Epson PM-800C)の4種について試行した。プリンターを用いる際には、新聞をスキャナーで取り込み、取り込んだ画像をAdobe社製Photoshop上でトリミングし(トリミングについては後述)、プリントした。前3者の場合、熱転写方式のため、印刷したとき独特の照かりが生じ、実物とは質感がかなり異なってしまう。一方、インクジェットプリンターでは、インク噴射方式のため照かりはなく、より自然な仕上がりになる。したがって、実物の質感を損なわないためには、インクジェットプリンターの方が適切である。

## III トリミング

プリンターを用いるためには、上述のように、コンピュータ上に資料の画像ファイルを作成する必要がある。今回は、資料をスキャナーで取り込み、画像ファイルを作成した(図3)。しかし、そのままでは資料の汚れや文字の潰れ、しわ、補修痕なども忠実にスキャンしてしまっているため、展示したと

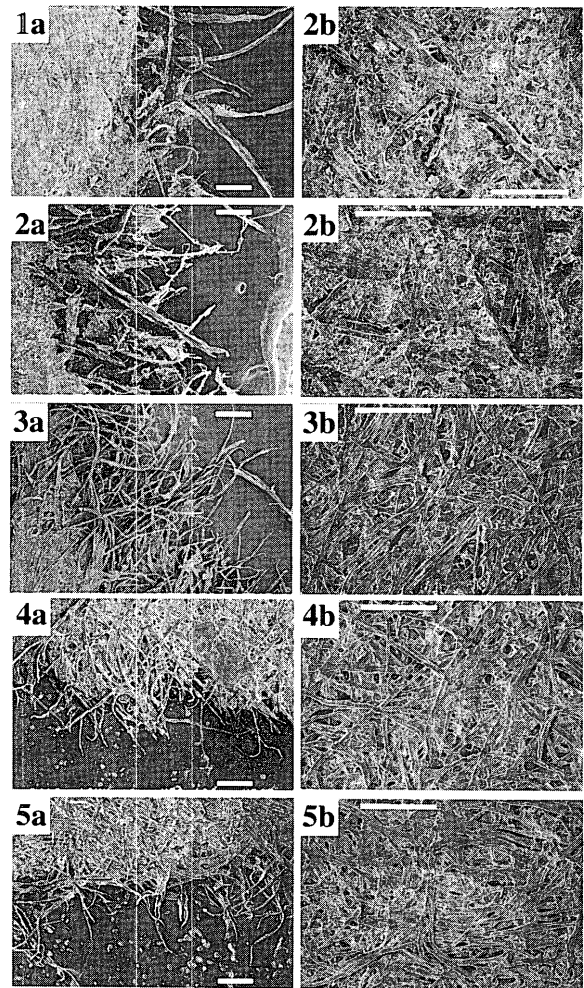


図2 更半紙、普通紙、新聞紙のSEM像写真。1新聞紙(a;破断部分, b;表面)。2更半紙(a;破断部分, b;表面)。3普通紙(ホワイトリサイクルペーパー「EW-500」)(a;破断部分, b;表面)。4普通紙(理想環境用紙100)(a;破断部分, b;表面)。5普通紙(MY RECYCLE PAPER 100W)(a;破断部分, b;表面)。スケールバーは、すべて100 $\mu\text{m}$ 。

きに読みにくく、第一印象のインパクトを欠く(図4)。そこで、スキャンした画像から汚れを取り除き、潰れた文字を修復・復元する等、トリミングが必要となる。今回は、資料をモノクロでスキャンしたもの(以下、記事ファイル)と、資料のカラー部分を抽出したもの(以下、背景ファイル)の2種類の画像ファイルを作成し、それぞれを別々にトリミングした(図3, 5)。

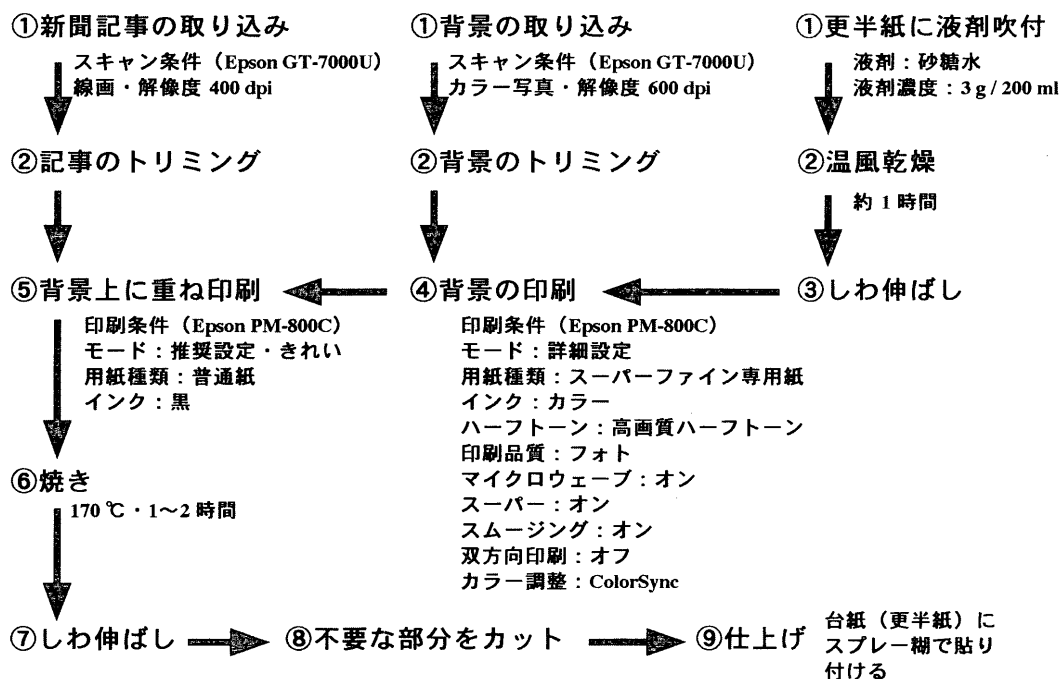


図3 レプリカ作成作業の工程図。



図4 記事ファイルのトリミング前(1)とトリミング後(2)。

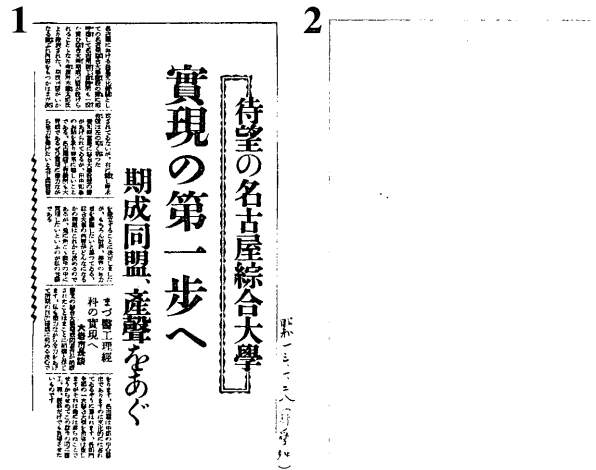


図5 記事ファイル(1)と背景ファイル(2)。1、2とも、トリミング後のもの。

記事ファイルについては、資料をモノクロでスキャナー (Epson GT-7000U) に取り込み (スキャン条件:線画, 解像度:400dpi), Adobe社製 Photoshopを用いて, 汚れや不要な線, 破れ, 補修痕, しわ等を削除した(図4)。潰れた文字については, 同一ファイル中より同じ文字を探し出してコピーし, 潰れた文字の上に重ねてペーストした(図4)。

背景ファイルについては, できるだけ空白部分が多く, しわ・補修痕等の少ない資料をスキャナー (Epson GT-7000U) で取り込み (スキャン条件:フルカラー, 解像度:600dpi), Adobe社製 Photoshop上で, 空白部分をコピーし, 記事部分に重ねてペーストすることによって, 印刷(記事・写真)部分をすべて消去した。その後, エアブラシツール等を使って継ぎ目をぼかし, 違和感がない自然な感じに仕上げた(図5)。

#### Ⅳ しわ, 黄ばみ, 焼け, 汚れムラの再現

しわ, 黄ばみ, 焼け, 汚れムラの再現に際し, 今回は以下の方法を採用した(図3)。

- (1) 霧吹きを用いて, 更半紙に液剤(後述)を均一に吹き付ける。
- (2) 更半紙を十分に温風乾燥させた後, 紙の上に重しを乗せ, しわを取る。
- (3) 更半紙に背景ファイルを印刷する。その際の設定(Epson PM-800C使用時)は, モード:詳細設定, 用紙種類:スーパーファイン専用紙, インク:カラー, ハーフトーン:高画質ハーフトーン, 印刷品質:フォト, マイクロウェブ・スーパー・スムージング:オン, 双方向印刷:オフ, カラー調整:ColorSyncとすると, 粒状感や印刷時の色ムラ等がなく, またモニター上の色合いがほぼ再現できる。
- (5) 背景を印刷した更半紙に重しを乗せ, しわを取る。
- (6) 背景の上に記事ファイルを重ね印刷する。その際の設定(Epson PM-800C使用時)は, モード:推奨設定・きれい, 用紙種類:普通紙, インク:黒, とした。
- (7) 印刷済み更半紙を, 170℃のオーブンで1~2時間焼く。

今回は, 資料のしわや黄ばみ, 汚れムラ, 焼けを再現するために「紙に液剤を霧吹きにて吹付後, 焼く」という手法を取った。液剤を吹き付けることによって, 紙に適度なシミができ, 汚れムラを再現できる。液剤としては, コーヒー, 茶色絵具溶液, 砂糖水の3種について試行した。その結果, コーヒー, 絵具溶液は相当量を吹き付けないと紙に色が付かず, また均一に吹

き付けても乾燥時に著しい色ムラが発生してしまうため実用的ではない。一方、砂糖水の場合、少量吹き付け後、焼いて砂糖を焦がすことにより、紙全体を満遍なく着色することができる。また場所による微妙な砂糖濃度の違いにより、焼いたときに自然な汚れムラを再現することができる。さらに、焼き加減で色の濃淡を微調整することにより、資料の質感をほぼ再現することができた。しかしこの場合、砂糖濃度と焼き時間の調整に多少の熟練が必要であり、また紙を焼く段階で、こまめに位置を変えて焼きムラを防ぐなど慎重を要する(図6)。砂糖水は濃度が高いと、焼いた時に色ムラが鮮明に浮き出てしまうため、低濃度(3g/200ml程度)の方がよい(図6)。砂糖水の濃度を高くすると“焼き色”を早く付けることができるが、低濃度の砂糖水を使用して、ゆっくり時間をかけて焼いた方が、焦げずに美しく仕上がる。

- (8) 更半紙に重しを乗せ、しわを取った後、不要な部分をカットする。
- (9) 台紙(更半紙)にスプレー糊で貼り付ける。

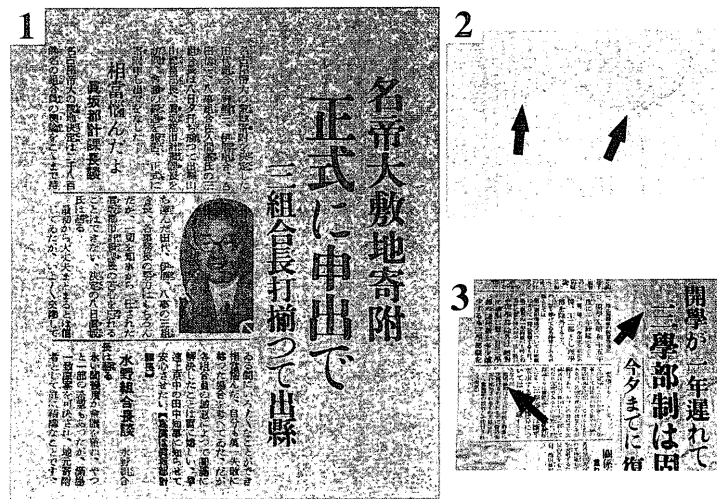


図6 液剤の吹き付け・“焼き”の段階での失敗例。1 焼き時間が長く、焦げ付いた例。2 高濃度液剤が原因の色ムラ(矢印部分)。3 焼いている途中、こまめに位置を変えなかったために生じた焼きムラ。リング状の濃色部(矢印部分)は、オープンの天板に長時間、直に触れていた部分。



図7 実物資料とレプリカ。1 実物の新聞記事資料。2 新聞記事資料のレプリカ。

## V 資料との比較

上記方法を用いることにより、質感、古さ、汚れムラ、黄ばみ、焼けともに、見かけ上、資料とほぼ遜色のないレプリカを作成することが可能である(図7)。しかしこの方法では、液剤吹付と“焼き”の工程を経るため、完成したレプリカの紙質が堅くなり、資料が持つ(時間経過による)紙質の軟化を再現することができない。“軟化”の再現については、今後の検討が必要である。またこのレプリカは、長期間外気に触れるとしわができてしまい、耐久性に劣る(図8)。したがって、長期間展示を行う場合は、レプリカ表面を外気から保護するための、何らかの方策が必要である。



図8 長期間外気に触れていたため、しわができたレプリカ。

## 4. レプリカの展示

上記の方法で、27記事のレプリカを作成し、そのうち18記事を「名帝大創立のころ」コーナーにてパネル展示した(図9)。レプリカを作成した記事のタイトルは以下のとおりである(\*は、展示に使用したもの)。

- ・待望の名古屋総合大学/実現の第一歩へ/期成同盟産声あぐ\*(S13.1.28 新愛知) 大学史資料室資料番号 849045-1
- ・総合大学の誕生を望む/県・市、学会相結び待望実現へ邁進(S13. 1.28 大阪毎日名古屋版) 大学史資料室資料番号 849045-1
- ・総合大学の意見書/満場一致で可決(S13.2.9 名古屋新聞) 大学史資料室資料番号 849045-4
- ・総合大学建設運動/いよいよ議会の花道に登場\*(S13.3.6 大阪朝日) 大学史資料室資料番号 849045-9
- ・大いに努力しやう/名古屋総合大学設立運動に木戸文相熱意を示す(S13.3.15 名古屋新聞) 大学史資料室資料番号 849045-9
- ・待望の名古屋帝大/文部省で実現に決す\*(S13.5.7 大阪朝日) 大学史資料室資料番号 849045-11
- ・名帝大費削除/文部省ただちに復活案(S13.11.17 大阪毎日) 大学史資料室資料番号 843054-14
- ・遂に名帝大予算大蔵省議で削除\*(S13.11.18 新愛知夕刊) 大学史資料室資料番号 843054-14
- ・時局色を盛って工科単科にせよ/名帝大・大蔵省の腹\*(S13.11.20 名古屋新聞夕刊) 大学史資料室資料番号 843054-17
- ・開学が一年遅れても三学部制は固守\*(S13.11.20 大阪朝日) 大学史資料室資料番号 843054-17
- ・全額復活は絶対不可(S13.11.21 大阪朝日) 大学史資料室資料番号 843054-17
- ・名帝大理工学部で文部省折合ふ(S13.11.28 新愛知) 大学史資料室資料番号 843054-21
- ・誠意遂に認められて名大“理工学部”遂に実現\*(S13.11.29 大阪毎日夕刊) 大学史資料室資料番号 843054-21
- ・皆さんの熱と力が名帝大創設の礎石だ/あくまで謙虚の立役者\*(S13.11.29 名古屋新聞) 大学史資料室資料番号 843054-22

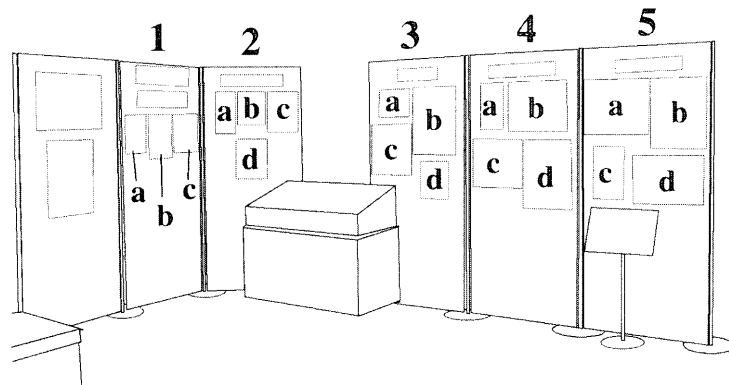


図9 「名帝大創立のころ」コーナー全景写真（上）とそのスケッチ（下）。

以下、番号は図中ボードに振られたサブタイトル名、アルファベットは新聞記事のタイトルを示す。

- 1 「地元にて名帝大設立の機運広がる一急速実現・具体化へー（S13.1月～5月）」
  - a 総合大学建設運動／いよいよ議会の花道に登場（S13.3.6 大阪朝日）
  - b 待望の名古屋総合大学／実現の第一歩へ／期成同盟産声あぐ（S13.1.28 新愛知）
  - c 待望の名古屋帝大／文部省で実現に決す（S13.5.7 大阪朝日）
- 2 「難産（S13.11月）」
  - a 遂に名帝大予算大蔵省議で削除（S13.11.18 新愛知夕刊）
  - b 時局色を盛って工科単科にせよ／名帝大・大蔵省の腹（S13.11.20 名古屋新聞夕刊）
  - c 開学が一年遅れても三学部制は固守（S13.11.20 大阪朝日）
  - d 誠意遂に認められて名大“理工学部”遂に実現（S13.11.29 大阪毎日夕刊）
- 3 「待望の「名帝大」実現へ！（S13.11月）」
  - a 凱旋の田中知事を迎え議事もそっちのけ／帝大誕生に沸く県会（S13.11.30 大阪毎日夕刊）
  - b 皆さんの熱と力が名帝大創設の礎石だ／あくまで謙虚の立役者（S13.11.30 名古屋新聞）
  - c 十六年度までには更に理学部独立／生みの親帰る（S13.11.29 大阪朝日）
  - d 鏡ヶ池一帯に奏でる帝大マーチ（S14.5.9 名古屋新聞）
- 3 「初代総長内定す！（S14.3月）」
  - a 名古屋帝大初代総長洪沢元治博士に内定（S14.3.2 大阪毎日夕刊）
  - b 新総長に映える名帝大／四月開校へ嬉しい足並み（S14.3.2 大阪毎日）
  - c 部長などは白紙さ／共進会には電気装備にきたぜ／洪沢さん来名（S14.3.17 新愛知夕刊）
  - d 結構ですの連発／大いに天下の秀才を育てるよ（S14.3.17 名古屋新聞）
- 4 「名帝大けふ誕生（S14.4月～5月）」
  - a 東海文化の誇り／名帝大けふ誕生（S14.4.2 大阪朝日）
  - b 交換嬢がにっこりと“こちらは名帝大”（S14.4.2 名古屋新聞）
  - c まづ人格を築け／洪沢総長親心の初訓辞／名帝大けふ始学式（S14.4.15 大阪毎日）
  - d 開学式の様子（写真）



- ・十六年度までには更に理学部独立/生みの親帰る\* (S13.11.29 大阪朝日) 大学史資料室資料番号 843054-23
- ・凱旋の田中知事を迎え議事もそっちのけ/帝大誕生に沸く県会\* (S13.11.30 大阪毎日夕刊) 大学史資料室資料番号 843054-23
- ・名古屋帝大初代総長渋沢元治博士に内定\* (S14.3.2 大阪毎日夕刊) 大学史資料室資料番号 843054-43
- ・新総長に映ゆる名帝大/四月開校へ嬉しい足並み\* (S14.3.2 大阪毎日) 大学史資料室資料番号 843054-43
- ・名帝大創設マーチ/時局に輝く国策調 (S14.3.10 名古屋新聞) 大学史資料室資料番号 843054-44
- ・部長などは白紙さ/共進会には電気装備にきたぜ/渋沢さん来名\* (S14.3.17 新愛知夕刊) 大学史資料室資料番号 843054-48
- ・名帝大の下検分に渋澤博士お国入り/曰く好きなのは地震と雷サ (S14.3.17 名古屋新聞夕刊) 大学史資料室資料番号 843054-48
- ・結構ですの連発/大いに天下の秀才を育てるよ\* (S14.3.17 名古屋新聞) 大学史資料室資料番号 843054-48
- ・東海文化の誇り/名帝大けふ誕生\* (S14.4.2 大阪朝日) 大学史資料室資料番号 843054-53
- ・交換嬢がにっこりと“こちらは名帝大”\* (S14.4.2 名古屋新聞) 大学史資料室資料番号 843054-53
- ・人材養成に献身/渋沢総長来名 (S14.4.5 新愛知) 大学史資料室資料番号 843054-54
- ・まづ人格を築け/渋沢総長親心の初訓辞/名帝大けふ始学式\* (S14.4.15 大阪毎日) 大学史資料室資料番号 843054-57
- ・名帝大豪壮の学舎/鏡ヶ池一帯(東山西南)に出現 (S14.5.9 出典不明) 大学史資料室資料番号 843054-59
- ・鏡ヶ池一帯に奏でる帝大マーチ\* (S14.5.9 名古屋新聞) 大学史資料室資料番号 843054-59

## 5. 来館者の反応

当博物館では、「来館者アンケート」を常時実施しており、職業、年齢、性別等の他、特別展・常設展の各コーナーに対する来館者の関心について調査している。このアンケートの結果を基に、本コーナーに対する来館者の反応を分析した。その結果、4/9から8/31までの間の4170人の来館者のうち、639人がアンケートに回答し、そのうち半数近く(43.7%)の279人が、本コーナーに関心があると回答した。常設展において最も注目度の高い、野依良治教授(2001年ノーベル化学賞受賞者)コーナーへの関心度が45.3%(639人中290人)であることを考えると、来館者の本コーナーへ注目度は極めて高いと言える。また、年齢について回答した者(607人)のうち、本コーナーに関心を示した者は、20代以下が266人中101人(38.0%)、30～40代が171人中93人(54.4%)、50～60代が127人中87人(68.5%)、70代以上が43人中35人(81.4%)であった。この結果は、高年齢者ほど本コーナーに興味を示したことを表すとともに、テーマ的に比較的馴染みの薄い低年齢層も、本コーナーに高い関心を寄せていたことを示している。また、アンケート回答数が多かった4/20(理学部創立60周年記念式典)、6/8(名大祭)、6/9(名大祭)、8/2(全学高校説明会)のデータについて見てみると、本コーナーに関心を持ったのは、それぞれ46.6%(回答者30人中14人)、65.2%(回答者23人中15人)、64.5%(回答者31人中20人)、31.8%(回答者44人中14人)であった。このことは、時期や母集団の構成にかかわらず、特別展期間中、本コーナーへの関心度が安定して高かったことを示す。

また、本コーナー展示に関して、来館者より以下のような声が寄せられた(来館者アンケートより抜粋。\*\*は著者自身が聞いた声)。

- ・この大学の歴史の始まりを知ることができ、興味を覚えた(50代男性)。

- ・名古屋大学創立からの歴史に大変興味があったので、とてもためになって大変嬉しかった（10代男性）。
- ・歴史を感じ取ることができました（50代男性）。
- ・名帝大の創立について感動した。人々の夢、希望、すべて美しく感動した（50代男性）
- ・「名帝大創立前後の新聞」→Newsletterに掲載してはいかがでしょう（70代以上男性）
- ・名大の成り立ちを知ることができてよかった（20代女性）
- ・名古屋大学の歴史がよく分かり、大変面白かった（10代男性）
- ・昔の新聞は見たことがなかったので初めてです。最初に目に入ったのは（記事の）「人格を築け」という文字でした。人間性を磨くことが学問の根っこになればならないんだなあと感じました（40代女性）
- ・初めは、レプリカだと気づかなかった\*\*
- ・しわが寄って見づらい\*\*
- ・資料と比べ、色が微妙に違うのではないか\*\*
- ・資料のコピーが欲しい\*\*

以上のように本コーナーの展示について、多くの来館者が関心を示し、概ね好評であったと結論できる。

## 6. おわりに

今回、新聞記事資料のレプリカ作成を試み、実物資料の質感をほぼ再現することに成功した。来館者の評判は概ね好評であり、また、レプリカと気づかずに見入る者も見られた。今後、紙の柔らかさの再現や耐久性（しわ）の問題などについて、さらに検討を要する。

従来、紙資料のレプリカ作成はあまり行われておらず、展示の困難な資料は、カラーコピーや写真にて代用展示されることが多かった。しかし、カラーコピーや写真は、資料の色合いや陰影をある程度は反映するが、本物の持つ質感やインパクトを十分に再現しているとは言い難い。最近、「ミューズセラピー」という概念が提唱され、実物標本・資料のインパクトによる“癒し”効果に注目がされつつある（名古屋大学博物館、2002）。博物館の教育的役割を考えた場合、代用展示に際し、「実物の持つ“癒し”効果をできる限り損なわない（言い換えると、実物の持つインパクトをできる限り再現する）」展示法を心がけることが、最も肝要であると思われる。

## 7. 謝 辞

レプリカ作成に際し、名古屋大学博物館スタッフの方々には、諸々の有益な助言、コメントを頂いた。名古屋大学大学史資料室のスタッフの方々には、資料提供をはじめ、様々な面でご協力いただいた。ロンドン自然史博物館顧問のGiles Clarke博士には、博物館の社会的意義について種々議論いただき、また、英文要旨を校閲していただいた。記して謝する次第である。

## 8. 引用文献

Clarke, G. (2002) A 21th Century role for a University Museum. *Programme and Abstract for International Forum on Search for a new concept in education and research through cooperation with sister university museum, The Nagoya University Museum*, 16-17.

名古屋大学博物館（2002）名古屋大学博物館・サテライトフォーラム開催記録「姉妹校博物館連携による知の創造と共有」。名古屋大学博物館報告, No. 18, 145-172.